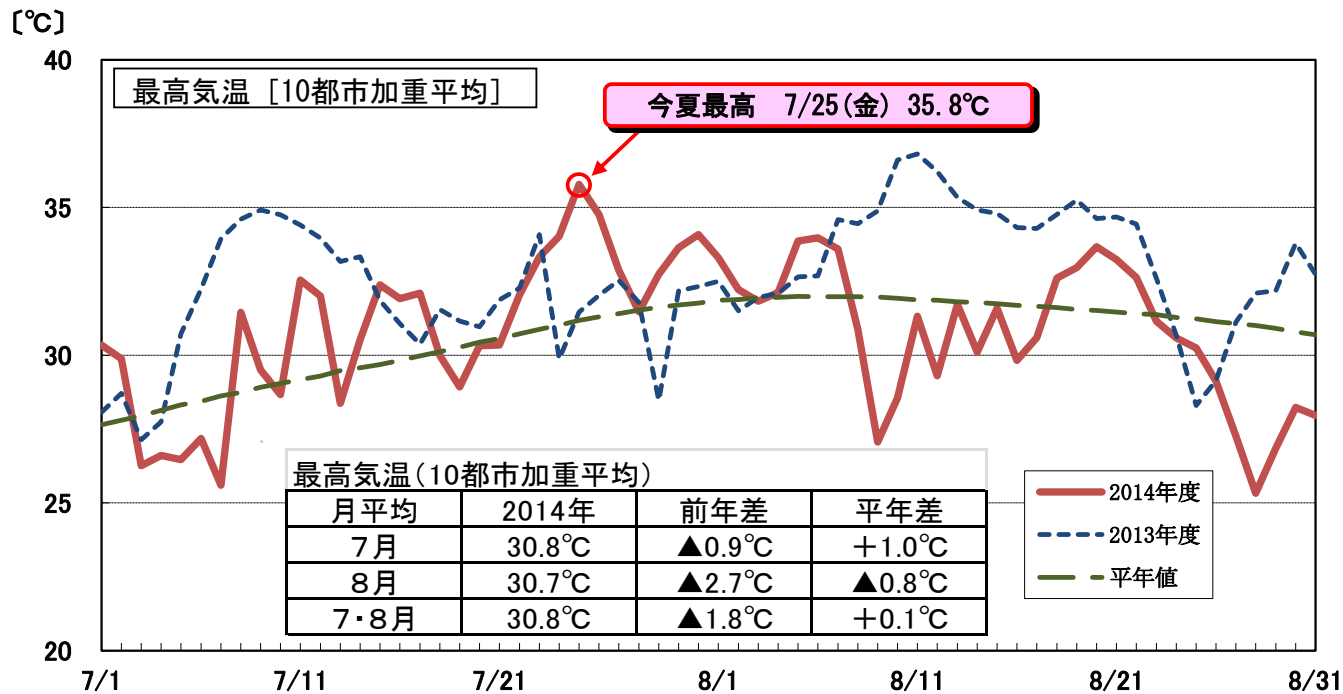


# 今夏(7月~8月)の電力需給について

## 1. 気温状況

- 7月最高気温(10都市加重平均)の月平均は30.8℃と前年より0.9℃低く、8月は30.7℃と前年より2.7℃低かった。
- 今夏は期間を通して前年を下回る日が多く、特に8月は前年を大きく下回り、平年と比較しても0.8℃低かった。



## 3. 全国および地域別の需給バランス実績

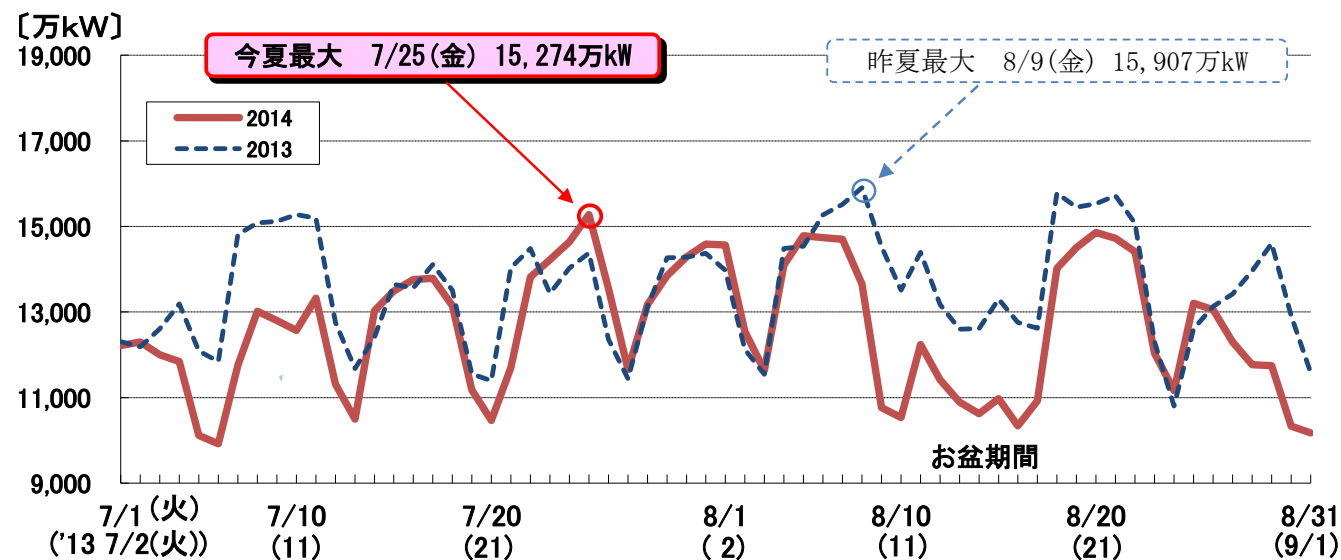
- 10社合成最大電力発生時の供給力は1億6,806万kWで、使用率は91%であった。
- 地域別では、東日本3社の合成最大電力は8/5(火)の15時に発生した6,779万kWで、供給力7,559万kWに対する使用率は90%であった。  
中西地域6社の合成最大電力は7/25(金)の15時に発生した8,677万kWで、供給力9,425万kWに対する使用率は92%であった。

	(単位: 万kW, %)		<参考> (単位: 万kW, %)	
	10社合成最大		東日本3社 合成最大	中西地域6社 合成最大
最大電力	15,274		6,779	8,677
発生日時	7/25 15時		8/5 15時	7/25 15時
供給力計	16,806		7,559	9,425
予備力 (予備率)	1,532 (10.0)		780 (11.5)	748 (8.6)
使用率	91		90	92

(注) 四捨五入のため、差引きは一致しない

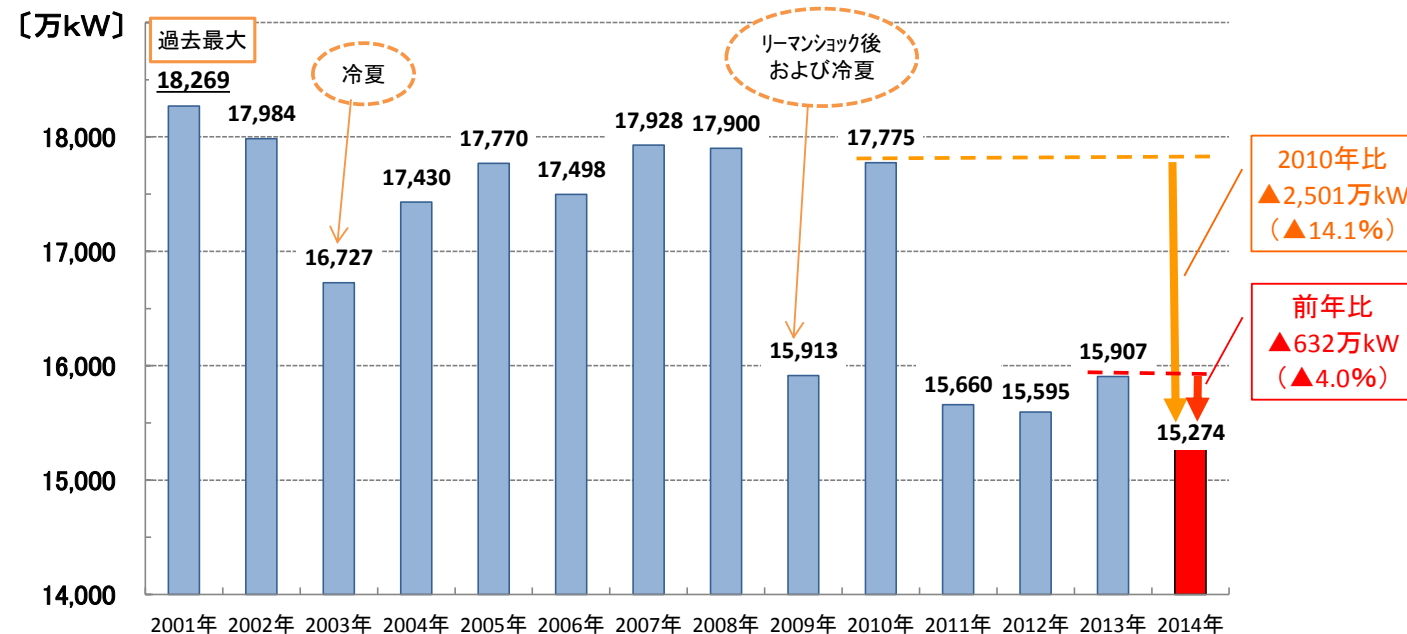
## 2. 10社合成最大電力実績

- 10社合成最大電力は、7/25(金)の15時に発生した1億5,274万kWで、前年比632万kW減(▲4.0%)であった。【参考】過去最大電力:1億8,269万kW 2001年7月24日15時
- 最大電力が発生した7/25(金)の最高気温(10都市加重平均)は35.8℃であった。前年の発生日と比較すると0.9℃高かったが梅雨明け後の一時的な気温上昇によるものであり、その後は暑さが持続せず、需要の押し上げには至らなかったものと推定。



## 4. 10社合成最大電力の推移

- 10社合成最大電力は、震災前の2010年と比較すると2,501万kW減(▲14.1%)となった。全国的に節電をお願いした2011年以降、低水準が続いていることから、お客さまの節電のご協力が要因となっていることに加え、今夏は気温の伸び悩みにより、さらに低水準になっているものと推定。



## 5. 各社の最大電力実績

○ 各社別最大電力は、北海道、東北を除く8社で前年を下回った。地域別では、東3社合成最大電力は前年並み(▲0.0%)であったが、中西地域6社合成最大電力は▲6.0%と前年を下回った。

(単位:万kW, %)

会社名	夏季最大電力						
	供給力	使用率	発生日時		前年比	2010年比	
北海道	459	503	90	8/4	14時	102.1	90.7
東北	1,360	1,586	86	8/5	15時	102.9	87.3
東京	4,980	5,444	91	8/5	15時	97.8	83.0
中部	2,452	2,671	92	7/25	15時	93.5	90.5
北陸	518	572	91	8/1	15時	98.4	90.4
関西	2,667	2,822	94	7/25	15時	94.7	86.2
中国	1,061	1,160	91	7/25	16時	95.4	88.3
四国	526	572	92	7/25	15時	95.7	88.1
九州	1,522	1,714	89	7/25	17時	93.1	87.0
沖縄	150	199	75	7/4	12時	97.8	101.1
東3社合成	6,779	7,559	90	8/5	15時	100.0	85.8
中西6社合成	8,677	9,425	92	7/25	15時	94.0	88.4
10社合成	15,274	16,806	91	7/25	15時	96.0	85.9

## 6. 供給力確保に向けた取り組み

### 【供給力の確保】

#### ○ 火力発電所の補修時期や定期検査時期の調整

・設備の保安上、繰り延べが困難な補修を除き、夏季を避けて補修時期を調整。災害規定の適用による定期検査時期の延長も実施。

#### ○ 長期停止火力発電所及び緊急設置電源の継続活用

・震災以降稼働させた長期停止火力発電所を引き続き活用(193万kW)。  
・震災以降設置した緊急設置電源を引き続き活用(86万kW)。

[震災以降稼働させた長期停止火力発電所の例]



関西電力・海南発電所2号機(2012年7月から再稼働)



九州電力・荻田発電所新2号機(2012年6月から再稼働)

### ○ 火力発電の新增設の前倒し・増出力

・可能な限り建設作業を前倒し、早期の営業運転開始に努め供給力を確保。また、運転開始に近い火力発電所の試運転電力も活用。  
・ガスタービンは夏季に出力が低下するため、吸気冷却装置を導入し、出力低下量を改善(29万kW)。

[営業運転開始時期を前倒しした建設工事の例  
(関西電力・姫路第二発電所4・5号機)]

		営業運転開始時期	
		実績	当初計画※
姫路第二 発電所	4号	2014年7月22日	2014年9月
		← 前倒し	
	5号	2014年9月5日	2015年2月
		← 前倒し	

※ 当初計画は平成25年度供給計画

[ガスタービン吸気冷却装置※の例  
(中国電力・柳井発電所1号系列)]



※ 吸気ダクト入口に水を噴霧し、水の気化熱により燃焼用空気の温度を下げ、夏季の出力低下を改善する装置

### ○ その他

・水力発電所の補修時期の調整。  
・各社の需給状況に応じて、一般電気事業者間での電力融通、さらに、自家発や新電力・発電事業者からの受電及び市場を活用した調達を実施。

### 【安定運転に向けた取り組み】

#### ○ 夏季前の設備点検(火力発電所の総点検)の実施

・国の「電力需給に関する検討会合」における要請を踏まえ、計画外停止を最大限回避する観点から、全火力発電所を対象とした夏季前の点検を実施。

#### ○ 巡視等によるトラブルの予兆管理の強化

・設備の巡視頻度の増、運転データの監視強化等により、トラブル予兆を早期に発見。

#### ○ 夜間・休日を利用した早期の補修実施

・軽微な不具合は適切に状況を判断し、電力需要が下がる夜間・休日等を利用して補修。  
・万一のトラブル発生時における、迅速な復旧に向けた体制の構築及び資機材等の確保。

### 【参考：需要面の取り組み】

#### ○ 電気料金メニューの拡充等

・節電・ピークシフトを促すような電気料金メニューや、計画調整契約の拡充等。

#### ○ 需給ひっ迫時の対策

・需給ひっ迫時の対策として、随時調整契約等の積み増し、その他デマンドリスポンスやアグリゲーター等を活用。

#### ○ お客さまへの情報発信

・ホームページ上での節電呼びかけや、節電に関するパンフレット及びチラシの作成など、様々な方法でお知らせを行うとともに、「でんき予報」など需給状況の情報を発信。

以上